

第12回 ISO/TC249 WG1会議開催(ソウル)

2018年11月2日(金)、韓国ソウルにあるMayfield Hotelにおいて、ISO/TC249 WG1 (TCM: Traditional Chinese Medicine)に用いる原材料の品質および安全性)の会議が開かれた。(12th Meeting, of ISO/TC249/WG1: Quality and Safety of Raw Materials Used in TCM)
今回からWeb会議が導入され、オンラインを通じて中国から9名が参加し、うち3名は発表者であった。

日本からはエキスパートとして計6名が参加した(次ページ一覧表参照)。
TC249の国内審議団体である日本東洋医学サミット会議(JLOM)の要請を受けて、日漢協から2名が参加した。

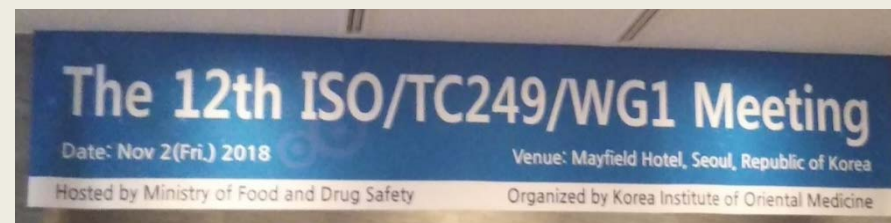


WG1グループフォト 2018年11月2日 Mayfield Hotelの庭園にて

※ISO/TC249の概要に関しては、[日本東洋医学サミット会議](#)のページをご参照ください。

ISO/TC249WG1では、生薬の標準化について、すでに6生薬が国際規格として登録されており、それに続く、党参、芍薬、山査子、竜眼肉など8種類の生薬の標準化案について活発な意見交換が行われた。日本は、従来から日局や国内業界に影響がでないよう訂正の要求をしてきたが、本会議においても、日本の要求は全て了承され、議事録に反映された。

今後関連する案件に関しては、日漢協の国際委員会拡大会議にて議論し、JLOMの国内委員会(ISO/TC249委員会1)を通じて必要な意見、要望を提出していく。



参加国	中国7名(Web参加9名)、韓国8名、オーストラリア1名、カナダ1名、日本6名、TC249事務局2名	
日本参加者	川原 信夫 先生	薬用植物資源研究センター センター長
	河野 徳昭 先生	薬用植物資源研究センター 室長
	新井 一郎 先生	日本薬科大学 教授
	伊藤 美千穂 先生	京都大学薬学部 准教授
	浅間 宏志 氏	日本漢方生薬製剤協会 生薬委員
	佐藤 久美子 氏	日本漢方生薬製剤協会 国際委員